



めぞう! 食肉の安全・安心!!

# 検査所だより

2020.2(vol.68)

宮城県食肉衛生検査所

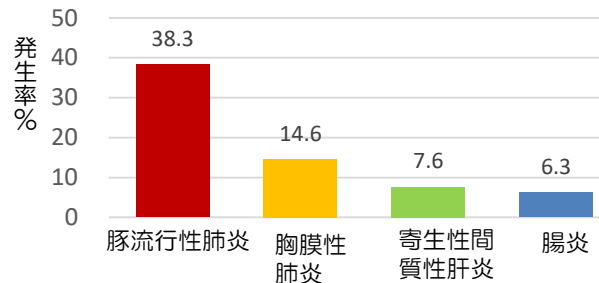
開かれた食肉衛生検査所へ! 私たちは食肉衛生検査情報の還元を推進し、開かれた食肉衛生検査所を目指しています。生産者の方も食肉関連事業者の方も気軽に当所をご利用ください。

## 過去10年間のと畜検査結果(豚)を集計しました

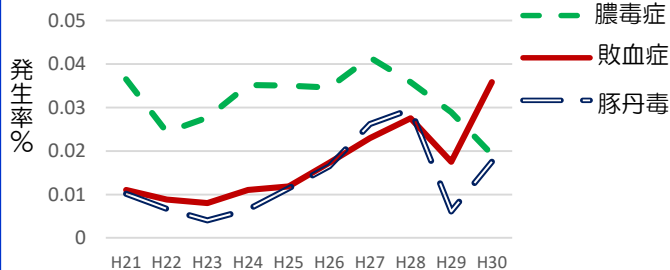
当所では、搬入された獣畜について、と畜場法に基づいた適正な検査を1頭ごとに実施しています。その検査結果に基づく措置内容(一部廃棄及び全部廃棄の別並びに疾病名)について、H21年度からH30年度までの10年間の長期的推移を調査しました。

**一部廃棄**(限局した部位のみ廃棄)について、発生率5%以上の疾病は右図の4つでした。最も発生率の高い疾病は豚流行性肺炎で、次いで胸膜性肺炎、寄生性間質性肝炎、腸炎が続きました。10年間で特に減少が見られたのは胸膜性肺炎で、H21年度の17.7%から、H30年度の11%と発生率が減少しました。

発生率5%以上の一部廃棄(10年間平均)



発生率の多い全部廃棄3疾病(10年間の推移)



**全部廃棄**(伝染病など全身性の疾病がみられる疾病)について、発生が多く認められたのは、膿毒症、敗血症および豚丹毒で、10年間で膿毒症は減少し、敗血症は増加していました。豚丹毒は増減の傾向はありませんでした。全ての全部廃棄疾病発生率の合計は10年間平均0.08%で1年ごとの大きな変化はありませんでした。

胸膜性肺炎は衛生管理の指標となるとされており、胸膜性肺炎の減少は、より衛生的に管理された豚が出荷されたことを反映している可能性が示唆されています。膿毒症の減少に関しても同様であると考えられ、豚の飼養環境の改善が進んでいるものと推察されました。

## と畜検査データとアニマルウェルフェア(動物福祉)

~アニマルウェルフェアとは生きている間は動物の存在を尊重し良い状態の生活レベルを与える必要があるという動物福祉の考えです~

と畜検査データは、世界中で疾病予防や遺伝的改良に活用されています。さらに近年では、畜産先進国において、アニマルウェルフェアの指標として活用されていることをご存じでしたか?と畜検査データは、アニマルウェルフェアの水準を高めるための価値あるデータとして扱われており、跛行、外傷の他、内臓疾患などがモニタリングされています。疾病の中には、アニマルウェルフェアを推進する放牧を利用した農場で多くみられる疾病、例えば寄生虫性疾患等もあります。アニマルウェルフェアを向上させるには、と畜検査データを多角的に解析し活用することが重要であると言われてしています。

(Grandin T, On-farm condition that compromise animal welfare that can be monitored at the slaughter plant, Meat Sci.2017より引用)

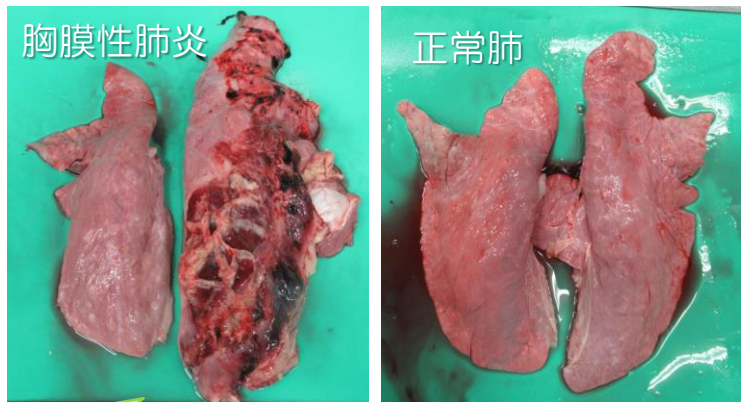
# 豚と畜検査疾病コラム「胸膜性肺炎※」

(※当所では、集計上胸膜の炎症を伴う肺病変を「胸膜性肺炎」(略号キ)と分類し集計しています)

空気の通り道である呼吸器は、空気中のほこりや病原体などにさらされやすい器官です。病原体による感染性の肺炎は、豚で高率にみられます。肺炎に感染すると、明らかな症状がなくても、発育遅延・飼料効率の低下などによる経済的損失が大きくなります。今回は豚の胸膜性肺炎を取り上げます。

## ～胸膜性肺炎～

アクチノバチルス属やパスツレラ属など種々細菌感染により、肺や胸膜に線維病変が認められます。これらの菌は豚の鼻口腔内に常在する細菌であり、各種ストレスが引き金となって発症します。右の写真のように、肺は出血や壊死が生じ、そこに好中球が集まり化膿性病変が形成されます。また、血液から漏れ出した線維素により、横隔膜や胸膜など周りの臓器と癒着します。

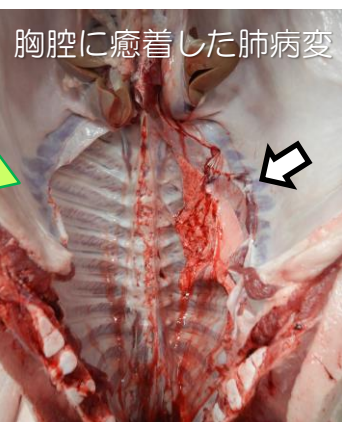


右肺のほぼ全てが病変部位です

環境悪化等の要因により、胸膜性肺炎が発生します。予防には、よりストレスの低減化を目指した衛生管理が重要です。と畜場における慢性胸膜性肺炎の発生率と管理方式や衛生状態など関与因子を調べた報告によると、胸膜性肺炎の発生率がより低かったのは、オールインオールアウトの実践であり、逆に、豚群の栄養状態の低さや生産ステージの異なる豚を混合するなどストレスがかかる管理をすると、胸膜性肺炎の発生率が高くなります。胸膜性肺炎になると、咳や努力性腹式呼吸、慢性化による増体不良など様々な症状を示します。治療や予防に、抗菌剤の投与が一般的ですが、薬剤耐性株も認められており、使用している薬剤の効果判定の実施など、抗菌剤の慎重な選択と有効使用が必要です。

と畜検査で見られる胸膜性肺炎では、肺の病変だけではなく、多くの場合隣接する心臓、横隔膜や肝臓とも癒着をおこし、他の臓器の廃棄も多くみられます。また胸膜と癒着するため枝肉の切除にもつながり、枝肉の品質低下にもなります。右の写真は、右側の胸腔に肺病変の癒着が見られる枝肉です。

これらは解体時にも、検査員や作業員が肺と癒着している部位を剥がし分離することに労力を要し、解体行程における枝肉の汚染にもつながります。食の安心安全のためにも、肺炎のない健康畜の生産を心がけましょう。



右側胸腔（肋骨のところ）に、癒着して剥がれない肺病変（←）が認められます。左側胸腔は正常です。

## 宮城県食肉衛生検査所

〒987-0311

宮城県登米市米山町桜岡今泉314

電話：0220-55-3752

ファックス：0220-55-4105

電子メール：[shmeat@pref.miyagi.lg.jp](mailto:shmeat@pref.miyagi.lg.jp)



当検査所では、申請者に対し、と畜検査結果を、閲覧または文書により提供しています。申請書は当所にも用意してありますが、当所ホームページ「提供可能なデータと各種申請様式」の表中ファイルからダウンロード可能ですので、ご利用ください。